

～ 3年連続の一等米比率 90%以上を目指し、H29JAなのはな米品質向上運動を実施中 ～

今年は6月が低温傾向に推移し生育が緩慢になった影響で、コシヒカリの幼穂形成期(幼穂長 2 mm)は昨年より遅い7月12日頃と見込まれます。

草丈、葉色など生育状況を的確に把握し、適切な穂肥施用などの技術対策により過剰着粒による品質低下(白未熟粒の発生)を防ぐとともに、登熟向上に努めましょう。

1. コシヒカリの穂肥施用

(1) 肥効調節型基肥肥料による栽培の場合

基肥に肥効調節型基肥肥料を施用したほ場でも、**出穂7日前(7月末頃)**に必ず葉色を確認し、**葉色が3.8(砂壤土は4.0)以下**の場合は、出穂までに「追肥化成3号」を7kg/10a施用し、登熟期間中の栄養維持を図りましょう。

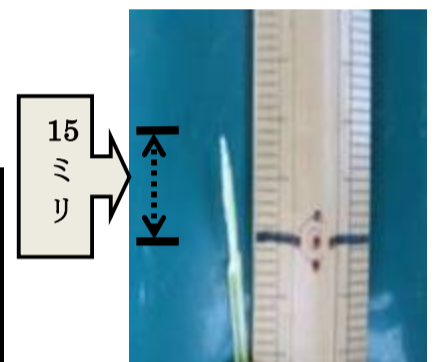
(2) 分施栽培の場合

- ・ 1回目の穂肥は、**幼穂長15mm(2mmを確認して8日頃)**を基本としますが、葉色が濃く、草丈が長い場合は施用を控えましょう！
- ・ 2回目の穂肥は、1回目の7日後を目安に、基準量を確実に施用しましょう。

表1 穂肥施用の目安 (分施の場合)

1回目穂肥施用時(幼穂長15mm時)の生育状況			1回目穂肥 7月20日頃(※5/13田植え)	2回目穂肥 (1回目穂肥の7日後)
葉色	草丈	稲の姿		
3.6程度	82cm未満	スッキリ	10kg/10a以内	10～13kg/10a
4.0以上	87cm以上	メラメラ	施用しない	10kg/10a以内

肥料：追肥化成3号



1回目穂肥施用時の幼穂長

生育が目標値をやや上回る場合は、1回目の施用時期を2～3日遅らせ、施用量は7kg/10a程度としましょう。

2. 水管理

《幼穂形成期～出穂期まで》
～飽水管理で根の活力を維持！～
足跡に水が残る程度になったら入水し、水不足に注意しましょう。



《出穂期以降》
～湛水管理で登熟を向上！～
出穂期から20日間は湛水状態(田面が出ない程度)を保ち、稲体の活力を維持しましょう。



3. 病害虫防除

～ 「斑点米カメムシ類多発」注意報発令中 ～

斑点米カメムシ類が昨年並みに多発しています。畦畔等の草刈りを励行するとともに、適期に基本防除を徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう。

表2 防除時期の目安

体系	防除時期	薬剤名	散布量	てんたかく (7/23 出穂)	コシヒカリ (8/3 出穂)	てんこもり (8/9 出穂)
粉剤	穂ばらみ期	ブラシンバリダ粉剤 DL	3～4 kg/10a	7/9～13	7/23～25	8/1～3
	穂揃期	ビームキラップジョーカー粉剤 DL	3～4 kg/10a	7/27～29	8/7～9	8/13～15
	傾穂期	トレボンスター粉剤 DL	3～4 kg/10a	8/3～5	(随時) 8/14～16	(随時) 8/20～22
粒剤	出穂10日前頃	フジワンラップ粒剤	4kg/10a	7/13頃	7/24頃	7/30頃

《留意事項》 ※各品種の田植時期はてんたかく:5/5頃、コシヒカリ:5/13頃、てんこもり:5/9頃で推定
○田植日等により生育が異なります、防除前に必ずほ場の生育状況を確認しましょう。
○防除の際は、農薬の使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。